

• 虎の門病院	皮膚科	岸 晶子
• がん研究会有明病院	皮膚腫瘍科	吉野公二
• 国立がん研究センター中央病院	皮膚腫瘍科	山崎直也
• 慶應義塾大学病院	皮膚科	船越 建
• 都立広尾病院	皮膚科	岩澤うつき
• 日本医科大学	皮膚科	帆足俊彦
• 聖マリアンナ医科大学	皮膚科	門野岳史
• 横浜市立大学	形成外科	林 礼人
• 信州大学医学部	皮膚科	奥山隆平
• 静岡県立静岡がんセンター	皮膚科	清原祥夫
• 浜松医科大学	形成外科	中川雅裕
• 藤田医科大学	皮膚科	有馬 豪
• 名古屋大学	皮膚科	横田憲二
• 中部国際医療センター	皮膚科	神谷秀喜
• 三重大学	皮膚科	北川敬之
• 新潟県立がんセンター新潟病院	皮膚科	竹之内辰也
• 富山県立中央病院	皮膚科	八田尚人
• 福井大学	皮膚科	飯野志郎
• 滋賀医科大学	皮膚科	藤本徳毅
• 京都府立医科大学	皮膚科	浅井 純
• 和歌山県立医科大学	皮膚科	山本有紀
• 関西医科大学総合医療センター	皮膚科	清原隆宏
• 大阪国際がんセンター	腫瘍皮膚科	大江秀一
• 大阪市立総合医療センター	皮膚科	前川直輝
• 星ヶ丘医療センター	皮膚科	立花隆夫
• 富田林病院	皮膚科	中川浩一
• 神戸大学	形成外科	寺師浩人
• 神戸市立医療センター中央市民病院	皮膚科	長野 徹
• 兵庫医科大学	皮膚科	金澤伸雄

	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県立がんセンター 皮膚科 高井利浩 ・市立伊丹病院 皮膚科 南祥一郎 ・岡山大学 皮膚科 森実 真 ・岡山医療センター 皮膚科 浅越健治 ・川崎医科大学 皮膚科 田中 了 ・島根大学 皮膚科 山崎 修 ・高松赤十字病院 皮膚科 眞鍋恵子 ・長崎大学 皮膚科 鋤塚 大 ・大分市医師会立アルメイダ病院 形成外科 橋本裕之 ・九州大学 皮膚科 伊東孝通 ・国立病院機構九州がんセンター 皮膚腫瘍科 内 博史 ・久留米大学 皮膚科 名嘉眞武國 ・熊本大学病院 皮膚病態治療再建学 福島 聡 ・宮崎大学 皮膚科 天野正宏 ・国立病院機構鹿児島医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科 松下茂人
本研究の目的	<p>遠隔転移のない悪性黒色腫に対して手術（原発腫瘍切除）は現在の第一選択となる治療です。現行の米国や本邦のガイドラインでは腫瘍の厚さに応じて推奨される水平切除マージンが規定されている一方で、深部切除マージンに関しては未だ明確な推奨マージンは言及されていません。腫瘍の厚さと予後は密接な関係があり、完全切除の際には十分な深部切除マージンが必要と一般に考えられていますが、十分な深部切除マージンが本当に予後改善に寄与しているか否かは不明です。日本人に多い掌蹠（手掌・足底）の悪性黒色腫（末端黒子型黒色腫）では深部組織の温存が重要です。他の解剖学的部位とは異なり掌蹠は荷重に耐えるよう厚い角層や真皮から構成され、脂肪組織はクッションとしても重要な機能を果たします。そのため、過度な深部切除マージンはクッション機能の低下を引き起こし、術後に痛みの発生やたこ・うおのめの発生など患者さんの生活の質（quality of life : QOL）の低下に繋がります。悪性黒色腫の発生が多い欧米では深部</p>

	<p>切除マージンに関する後方視的観察研究は少数あるものの、掌蹠末端黒子型はほとんど対象に含まれていません。また本邦における掌蹠末端黒子型黒色腫を対象とした深部切除マージンに関する大規模な研究も行われておりません。そのため、本研究では当科を含めた悪性黒色腫の診療に従事する全国の大学病院やがんセンター、主要病院 64 施設からのデータ提供を得て、深部切除マージンと予後との関係を解析し、適切な深部切除マージンを探索するための有益な情報を得ることを目的とします。深部切除マージン縮小で予後増悪がないことがわかれば本邦の患者さんの QOL 向上に繋がります。もし脂肪組織全層を含めた深部マージン切除の方が予後を改善すれば、これまで科学的に不明であった適正な深部切除マージンを解明する一助となります。</p>
調査データの 該当期間	2011 年 4 月 1 日 ~ 2023 年 3 月 31 日
研究の方法 (対象となる方)	掌蹠末端黒子型黒色腫と診断され、手術を実施した患者さま
研究の方法 (使用する情報)	<p>患者年齢、性別、既往歴、併存疾患、原発巣の部位、術前 in-transit 転移の有無、術前衛星転移の有無、潰瘍の有無、センチネルリンパ節生検の有無、領域リンパ節転移の有無、領域リンパ節郭清の有無、adjuvant therapy の有無、adjuvant therapy 有の際の薬剤種類、水平切除マージン、深部切除マージン（深部切除層）、再建法、術後局所再発の有無、術後 in transit 転移の有無、術後衛星転移の有無、術後領域リンパ節転移の有無、術後遠隔転移の有無、tumor thickness、腫瘍最深部から深部断端までの距離、病期（TNM 分類）、無局所再発生存期間、無領域リンパ節再発生存期間、無遠隔再発生存期間、無再発生存期間、全生存期間、血液・生化学検査データについて診療録および手術記録につき振り返り、データを抽出します。</p>
資料・情報の他機関 への提供	作成した症例報告書は、埼玉医科大学国際医療センターに送付します。

個人情報の取扱い	<p>研究対象者の氏名、ID、生年月日など個人情報の代わりに研究対象者一人一人に研究特有の患者識別コードを割り付け、匿名化した状態で研究データを管理します。</p> <p>埼玉医科大学国際医療センターに送付された症例報告書は、研究室内の鍵のかかる保管庫で保管されます。保管期間は研究の終了報告後5年間です。</p>
本研究の資金源 (利益相反)	<p>資金源：埼玉医科大学皮膚腫瘍科・皮膚科基本学科研究費 NPO 法人日本皮膚外科学会学術研究奨励賞</p> <p>利益相反：なし</p>
お問い合わせ先	<p>研究代表者</p> <p>埼玉医科大学国際医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科 小泉滋、中村泰大 TEL：042-984-4111</p> <p>当院の担当者</p> <p>君津中央病院 皮膚科 稲福和宏 TEL：0438-36-1071（代表）</p>
備考	